

「いざ、出発」。
長崎駅いなさ口の前で

いよいよ開業した西九州新幹線。博多・長崎間は 30 分も所要時間を短縮し、西九州の公共交通に新しい時代がやってきました。その開業初日に、数々の鉄道イベントや YouTube で活躍している「ママ鉄」豊岡真澄さんに旅をしていただきました。

西九州新幹線開業！ 「ママ鉄」豊岡真澄の、 西九州新幹線各駅の旅

文：豊岡 真澄

写真・構成：栗原 景



©Don Design Associates



長崎駅かもめ口からは発車を待つ新幹線がよく見える

西九州新幹線
開業レポート
～後編～
公開中！



駅前広場にも一番列車出発の
熱気が伝わる

皆さん、こんにちは。ママ鉄の豊岡真澄です。今回、記念すべき西九州新幹線開業の瞬間に立ち会えるということで、数日前からワクワクとドキドキが止まらない日々を過ごしていました。

長崎駅は、以前一日駅長を務めさせていただいたこともある思い出深い駅です。2022年9月23日朝6時、久しぶりに長崎駅を訪れると、すっかり新しい駅ができていて感激しま



①いよいよ「かもめ12号」に乗車 ②初めて西九州新幹線の改札口を通過 ③長崎市の花「あじさい」をモチーフにしたガラススクリーン ④記念に「かもめ12号」を撮影



した。「かもめ口」と名付けられた東口広場からは、14番ホームに停車している西九州新幹線の一番列車「かもめ2号」がよく見えます。朝早い時間にも関わらず大勢の人がいて、ホームから開業式典の声も聞こえるなど、長崎駅全体が熱気に包まれているのが伝わってきました。

6時17分、「プーン！」と警笛が鳴って、列車がゆっくりと動き出します。その瞬間、鳥肌が立つほど感動しました。

新しい長崎駅に入ってみましょう。以前の長崎駅は、懐かしい終着駅という雰囲気でしたが、新しい駅は明るい高架駅になりました。壁な



「かもめ8号」の出発を見送りました

どに煉瓦や長崎県産の木材が使われていて、とても洗練された雰囲気。新幹線が開業して、未来に向かって動き出したという印象です。

改札内コンコースに入ると、正面の綺麗なガラススクリーンが目にとまりました。長崎市の花である「あじさい」をモチーフにしたもので、市民と一緒に作ったのだとか。まちの人々が駅づくりに参加できるなんて、素敵ですね。

いよいよホームに上がります。ドーム風の白い膜屋根が特徴の、とても開放的なホームです。注目したのは、ホームの先端。私は終着駅の車止めが好きなので、大きな車止めの向こうに長崎港が見える風景に惹かれました。ゆっくり散策したくなります。

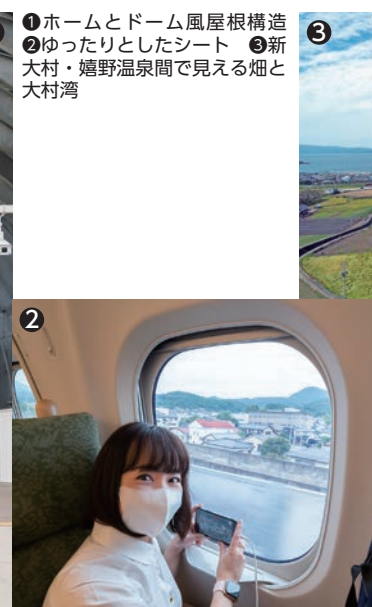
もっと乗ってたいくなる
指定席

初めて乗車する西九州新幹線の列車は、8時39分発の「かもめ12



号」です。私は鉄道車両が好きな「車両鉄」でもあるので、新たに走るN700S「かもめ」のデザインや乗り心地をととても楽しみにしていました。基本的な形は東海道・山陽新幹線のN700Sと同じですが、内外装のデザインを担当した水戸岡鋭治さんの魔法で、全く別の車両に見えます。特に、車体に毛筆で書かれた「かもめ」の文字が印象的です。これは青柳俊彦 JR九州代表取締役会長の直筆だそうです。今は武雄温泉駅までの開業で、博多へは在来線の「リレーかもめ」が接続しています。

私が乗車したのは、2号車の指定席。6両編成中3両の指定席は2×2列のゆったりとしたシートで、背もたれもフカフカとしていて、ま





①武雄温泉駅は、温泉のシンボルである楼門がモチーフ ②駅前の噴水広場 ③朱色の楼門は、東京駅と同じく辰野金吾氏がデザインを手掛けた

るでグリーン車のようです。シートのデザインも1両ごとに異なり、2号車は「獅子柄」をイメージしたグリーンのシート。床がさまざまな草花の柄なものおしゃれです。

長崎駅を出発した「かもめ12号」は、諫早駅を発車すると武雄温泉駅までノンストップ。終点・武雄温泉駅までの所要時間はわずか24分で、もっと乗っていただきますね。

武雄温泉駅では、在来線の「リレーかもめ」と同じホームで接続します。向かいのホームに来たのは、1992年に水戸岡鋭治さんが初めてデザインした特急型車両である787系です。西九州新幹線と顔を合わせた



特急券を記念にもらいました

787系は、まるで後輩を見守る大先輩のよう。乗り換えを便利にするために新幹線と在来線を1本のホームに並べるなんて、すごいアイデアですね。乗り換えもスムーズで、すぐに大勢のお客さんを乗せて発車していきました。

武雄温泉駅の新しい駅舎は、1,300年の歴史を持つ、武雄温泉の歴史を感じさせるデザインです。武雄温泉のシンボルであり、東京駅と同じ辰野金吾氏が手掛けた楼門のデザインを活かしているそうです。確かに出入口の丸みを帯びた壁がよく似ています。

市民による手作りの作品が出迎えてくれる

10時発の「かもめ13号」に乗って、隣の嬉野温泉駅まではわずか6

分。お茶の産地だけあって、ホームに降りると茶畑が見えてうれしくなりました。ぜひ見てほしいのが改札内コンコースのパネルです。一見タイルの色で川を表現した作品に見えますが、よく見るとタイル1枚1枚に川の生きものが描かれているんです。市民が描いたもので、タイルは地元の特産である肥前吉田焼。本当に多くの人々が参加していて、地域の人たちにとって待ちに待った新幹線であることを感じました。私も、息子や娘と一緒に描いた絵を新幹線の駅に飾ってもらえたら、一生の思い出になるだろうな……。西九州新幹線沿線の人たちがとてもうらやましく思えました。

駅前には温泉を使った「手湯」があります。ちょうどよい湯加減で、すぐに手がすべすべしてきました。広々とした駅前広場ではお祭りが開かれていて、屋台で特選嬉野茶をい

嬉野温泉駅にある「川の生きもの」をテーマとしたトイレ前の展示。当地ではナマズが信仰の対象



ただきました。口に含むとふわっとお茶の香りが広がって、後味はすっきり。早速家族へのおみやげに買っちゃいました。

12時14分に到着した新大村駅は、駅舎がとても印象的です。空に向かって広がるような逆三角形のデザインは、「大村市の明るい未来」を表現しているのだそう。落ち着いた色味の壁は、大村市の文化財である五色塀に使われる海石を表現しています。色と風合いにこだわりがあって、特に赤の壁は試行錯誤を重ねたそうです。改札内コンコースには、その五色塀が再現されています。私は鉄道だけでなくお城も大好きなので、こうした歴史ある壁を見ると、お城を連想してワクワクします。

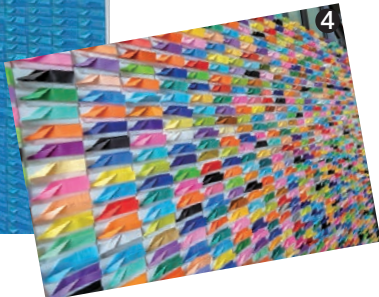
世界新三大夜景のシンボルになる長崎駅

諫早駅に到着すると、在来線のホームにこの日から運行を開始した「ふたつ星4047」が停車していました。長崎県と佐賀県の海を眺めながらスイーツや料理を堪能できる観光列車で、駅の人からいただいた旗を振って、発車を見送りました。

諫早駅は、西九州新幹線では唯一の地上駅。大きなガラス窓が特徴の明るい駅で、コンコースには四季折々の花を「湯江紙」という地元の和紙で挟んだ押し花アートのガラススクリーンがあります。これも市民との協働で作られたもの。どの駅に



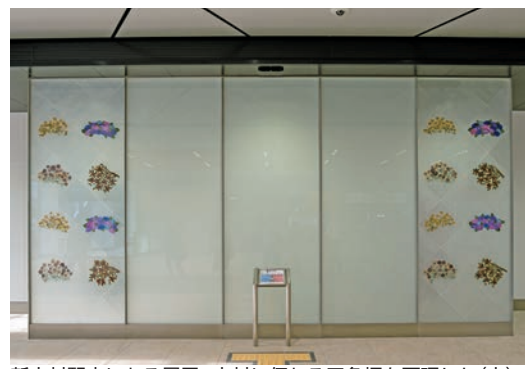
①嬉野温泉駅前にあった「手湯」 ②駅で記念に配られた嬉野茶 ③市民が制作した折り紙アート ④市民が折り紙で作った新幹線



も、そのまちの人々が作ったハンドメイドの作品があって、温もりを感じさせてくれるのが素敵だなと思いました。

16時55分に長崎駅に戻った後は、日没に合わせて駅の近くにある稲佐山展望台へ。ここから眺める長崎市内の夜景は、上海、モナコと並ぶ「世界新三大夜景」に選ばれています。辺りが徐々に暗くなり、新しい長崎駅の灯りが浮かび上がってきました。膜屋根が駅の灯りを透過するので、夜景では一際美しく見えます。

1日かけて西九州新幹線の駅を訪れましたが、どの駅でも地元の方々が笑顔で歓迎してくれるのが印象的でした。これから、きっと全国から多くの人が西九州新幹線で佐賀県と長崎県を訪れることでしょう。私も、これから何度も乗りに来たいと思います。



新大村駅内にある展示。大村に伝わる五色塀を再現した(上)、諫早駅内にある、市民によって作られた押し花アート(下)



稲佐山からは長崎駅が浮かび上がって見える